

---

# 7年目の初恋

遼

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

7年目の初恋

### 【Nコード】

N3603I

### 【作者名】

遼

### 【あらすじ】

幼馴染の遼はるかと遼りょう。

同じ名前の二人は、お互いを想う気持ちも同じだった。付き合うことになったはるかとりょう。

しかし、幸せもそう長くは続かない。

はるかを襲う恐るべきものは　　！？

そして、二人の恋の行方は！？

中学生の初恋を描いた、恋愛物語。

## 登場人物のプロフィール

### 登場人物のプロフィール

佐々木 遼 はるか 中学2年生。吹部所属。ポジティブな性格。りょうの幼馴染。

小川 遼 しやう 中学2年生。偶然で、名前がはるかと同じ漢字。はるかの幼馴染。剣道部所属。

河瀬 美結 みゆう 中学2年生。はるかの親友。吹部所属。ヒロのけんか相手。

菊池 宙 ひろ 中学2年生。美結のけんか相手。バスケット部所属。りょうの親友。

黒山 美羽子 みわこ 4人のクラスの担任。はるか、りょうの良き相談相手。

春 - 新しい始まり -

- はるかSIDE -

外は春の香り。

深呼吸。春の全部が私の中に入ってくるみたいで気持ちいい。

佐々木遼、今日から中学2年生です!!!

ちなみに、部活は吹部で、趣味は食べること(きっぱり)!!!

クラスは.....

お、1年の時一緒だった人とほとんど同じだ。

りょー、また一緒じゃん!!!

りょーってのは、小川遼。

漢字が同じだからこう呼んでるの。

幼馴染で、同時に、小学校1年の時からずっと同じクラス。

幼馴染とこんなにずっと同じクラスって、すごいよね。

8年目!!!

でもね、いやじゃないよ。

すっごく気軽に話せるし、

逆に心強いかも。

それから、親友のミュウも一緒だ!!!

ミュウって名前かわいいよね。

はじめてこの名前見たとき、「みゆ」

かと思ったけど。

ミュウは、名前だけじゃなくて、顔も可愛い。

すっごくもてる。

くう~~~~っ!!!羨ましい!!!!!!!

でもあたしは、みんなにもてなくていい。

たった一人の人が自分のことを好きになってくれれば。

てかさ。

あたし、実はりょーのこと好きなんだ。

そんなことはずかしくて本人には言えないけどね。

その歴、実に7年!!!!!!!

小2のころからずっと好きなんだ。

もうそろそろ告白しよっかなって考えてる。

で、話がそれちゃったけど。

今日から始まるあたしの中学2年ライフ。

どんなことがあるのかな??ワクワク^^

春 - 新しい始まり - \*りよーSIDE\*

俺は、今日から中学2年になる。

クラスは、はるかと8年連続同じ。

あとは、俺の親友のヒロ、はるかの親友のミュウ。

そして担任は、1年の時に引き続き、黒山美和子だ。

実は俺は、しょーじきいつて

はるかと同じクラスでよかったと思ってる。

まだヒロしか知らない事実だけど、俺ははるかが好きなんだ。

でも俺最悪なんだ。

はるかに、「デブ」「チビ」っていつて、

はるかを散々傷つけてきた。

こんな俺のことなんて、嫌ってるにきまってるよな。

なんでこんなこと言ってしまったのか。嫌われなくなかったくせに。

理由は自分でもわかってるつもりだ。

はるかに少しでも自分のほう向いてほしかったからじゃないのか？

少しでも気にしてほしいかったからじゃないのか？

だからそんなこと………

このままはるかのこと傷つけない。

だから、今までのこと全部謝る。

謝って、俺がはるかのこと幸せにする。

幸せにできるか分からないけど、

そう決めたんだ。

告白するんだ。

春 - 新しい始まり - \*はるかSIDE\*

明後日は文化祭。

ウチのクラスは、例によってお化け屋敷の出し物。

最悪・・・あたしお化けとか嫌いなのに・・・

「はーるかつゞ(\*・・)(ノ!!あれっどしたの?元気ないね・・・?  
「?」

「ミュウ・・・だってお化け屋敷い〜。。。。)(p)  
(q)(r)。。。。」

「・・・・・・・・そんな嫌??」

「うん。 てか、なんでそんな機嫌イイの??」

「ウフフ〜 〓 〓 (ノ) (ノ)」

「なにさ〜、気になるなあ・・・。」

ミュウは上機嫌。

ほんとどしたのかなあ・・・

「ねえ、教えてよ。」

「ヤダ。」

「じゃあ文化祭の準備終わったら教えて。」

「う〜ん〜ん・・・どーしよっかなあ・・・

（、、うん、いいよ。」

「なんだろ、きになる〜〜!!!!」

「ふふふ、後でのお楽しみだね、今は準備がんばろっ!!!!!!」

そういえば・・・

決めたことがあります!!!

宣誓!!!!佐々木遼14歳、文化祭の日、りょーちゃんに告白しま  
す!!!!!!!

てっとうび。

告白することにしたの。

悩んで悩んで悩んだ末に。

この結論を出しました!!!!!!

りよーちゃんがウチのこと想ってるかどうかは

わかんないけど。。。

このままずっと悩むのはイヤだから……………。

始まりの予感 \*りよーSIDE\*

いよいよ明日は文化祭。

俺たちのクラスは、お化け屋敷だ。

いま、最終仕上げをしている。

「出来たよ~~~~~!!!」

はるかが、書いていた『お化け屋敷』の看板を掲げた。

「相変わらずへったくそな絵。」

俺は吐き捨てるように言ってしまった。

しまった!!!!!!またいつちゃった・・・

思った時には遅かった。

はるかは、それまでにはない反応を見せたのだ。

泣いていた。

はるかが・・・泣いた。

俺が泣かせた・・・・・・・・・・。

あの強がりのはるかを、俺が泣かせた・・・。

俺はなんてことを・・・・・・・・。。。

「!!!!佐々木、泣いてるぞ!!!!

なにあれくらいでないんだよ。」

「もしかして、りょうのこと好きなんじゃないの?笑) (」

は??なんでそうなるんだよ?

そして、続いてあり得ないことをいった奴がいた。  
はるかだった。

「p< > q\*( ) そうだよ!!!!

好きだよ!!!!

いっつもいっつもひどいことばっか言われてたけど、  
りよーちゃんのこと小学校一年生のころから大好きだよ!!!!」

???

なにいまおれこくはくされてる?

はるかがおれのことすきっていった？

「ヒューヒューヒュー……!!」

佐々木が公開告白……!!」

クラスのやつらが叫んでる。

ホントなのか？

はるかは本当におれのこと

。

確かめなくては。

でも、こんなところじゃあ……

俺は、はるかの手をつかむと、

あてもなく無我夢中で走り続けた。

始まり、そして……… \*はるかSIDE\* (前書き)

はるかは公開告白をしてしまった!!!

りょうは、はるかの気持ちを確かめるべく走る。  
はたして、二人の今後は  
!?

始まり、そして……… \*はるかSIDE\*

「p < > q \* ( ) そっだよ!!!」

好きだよ!!!

いっつもいっつもひどいことばっか言われてたけど、

りよーちゃんのこと小学校一年生のころから大好きだよ!!!」

………今ウチなんて………?

もしかして、言ってしまった………?

りよーちゃんを好きだと?

しかもクラスのみんなの前で………?

呆然と立ち尽くすウチの手を、誰かが引っ張った。

りよーちゃんだ。

ウチは、りよーちゃんに引かれるままに走り続けた。

ついたのは、体育館の裏。

まっ先に、りよーちゃんが口を開く。

「おま・・・えんほん・・・とに、俺のこと・・・好き・・・なの・・・??」

ずっと走ってたから、息が整ってない。

うん、好きだよ。ずう~~~~とまえから・・・

言いたいののに、声が出ない。

何分、何時間にも思われるような長い沈黙の後、

ようやくウチは口を開いた。

「うん、好きだよ。ずう~~~~とまえから・・・」

やっと、やっとウチが言いたかったことが、

7年間言えなかった塊が全身から抜けていく気がした。

「そつ・・・かあ~~~~」

なんかちょっと恥ずかしいから今こっち見ないどいて。」

「う、うん・・・」

まだどれくらい経っただろうか。

りよーちゃんが口を開く。

「はるか、今までごめん!!!」

ほんとほ、俺もお前のこと好きだったんだ。

告白しようと思ってたのに、お前に先にされちゃったな（^^ゞ

「あは・・・あはははは^^

りょーちゃんが悪いんじゃない。

うちのこと悪く言っただもん。」

「それも愛のうちだよ^^^^」

「うふふ^^」

こうして付き合うことになったウチとりょーちゃん。

嬉しいことは長くは続かないことの意味を、  
すぐ後に思い知った・・・。

始まり、そして……… \*はるかSIDE\* (後書き)

6話目(正式には5話目)、どうでしたか??

まだまだ続きます。

結末を予想しながらお楽しみください!!!

いや〜、改めて考えると恥ずかしい。

7年間もずっと両想いだったなんて。

もっと早く告白しちまえばよかった。

俺、馬鹿だな。

ほんとと、あの日から幸せな毎日だ。

朝。はるか待合わせして学校へ行く。

はるか、俺を見ると駆け寄ってくる。

「おっはよ〜」

そして、学校の授業中。

俺たちは、授業なんて聞いちゃいない。

手紙のやり取りをして、挙句の果て

教室を抜け出して、二人で寝転んでる始末だ。

そんな些細なことも、俺にとっては幸せだった。

そんなある日。

RRRRRRRRRRRRRRRRRRRRRR。

「はい、もしもし。小川です。」

母親が出る。

「えっ？入院？？わかりました、すぐ行きます！！！」

ガチャツ。

「病院、行くわよ！！！！！」

「何でだよ？」

「はるかちゃんが入院したって。」

「えっ！？！？！？！」

はるかが入院？

冗談だろ？

だってあんなに元気だったじゃないか。

病院について、ほっとした。

ただの貧血で、入院したらしい。

顔色も良かったし、大したことはなさそうだった。

「りょーちゃん・・・アハ、心配させてごめんね。」

「俺のことなんていいから・・・早く退院しろよ。」

「うん！」

その日から、俺は毎日毎日、学校が終わると

そのまま病院に直行したのだった。

ある日。

いつものように病室へ行くと、ベッドにいるはずのはるかがいなかった。

入院〃退屈 \*はるかSIDE\*

「暇あ〜」。

なんで貧血くらいで入院……。

全く……。

暇だから散歩しにいこーっと。

夏だなあ、ということが実感できる空間。

木々の葉は青く茂り、はるとはまた違った清々しさ。

ふと、木の絵を描いている人が目に入った。

「あの一ー」。

「こんにちは」。

「あつ、こんにちは。私、佐々木遼っていいます。  
あなたは？」

「僕は、草柳 潤だよ。よろしく^^」

「あの・・・絵、好きなんですか？」

「・・・絵を描いてるとね、病室での憂鬱が吹き飛ぶんだ。だから、いつもここであの木を描いてる。」

「そうなんですか。」

「・・・あ、この点滴、私と同じだ。」

「おっ、じゃあ同じ病気なのかな・・・？」

「何の病気ですか？」

「・・・・・・・・・・・・・・・・白血病。」

「！.....！！」

「・・・私急性貧血です・・・」

「そうか、残念、違う病気だったね。」

「.....。」

「あつ、残念じゃないか。」

「ごめん。」

「いいです」お~~~~い!!はるか!.....!!」

「りよーちゃん!.....!!」

「だめじゃないか、病室にいないと。」

「だって…詰まんないんだもん。  
あ、こちら、草柳さん。」

「草柳です、よろしくね。」

「…小川遼です。」

「はるかちゃんのお友達かな？」

「彼氏です!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

「ふふふ^^」

「そうか。」

「じゃあ、また今度ね。」

「はい、さよなら。」

「りょーちゃん。」

「…なに？」

「あのひと、白血病なんだって。」

「!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

「大変なんだね。」

「……うん。」

その日の夜、私は草柳さんの病室に行った。

ガラガラガラ

「こんばんわ。」

「こんばんわ。」

「詩を持ってきたの。」

「へえ、どれ？」

私が渡したのは、命についての詩だった。

「担任の先生がね、好きだって言っていた詩なんです。」

「そうなんだ。いい詩だ。」

私は、ふと、ある本に目が行った。

「あの…。その本、見せていただけますか？」

「……………はい。」

どしん。

ずっしりとした重みがある本だった。

『医学図鑑』

ペラペラとめくっていくと、

あるページにたどりついた。

？何だろう。

急性貧血 という文字とその病気の説明に、大きくバツがしてある。

そして、違うページの白血病 というところに、「ふざけるな！！」  
「！」

と書いてあった。

見た瞬間、私は息をのんだ。

「草柳さん、これって……………！！……………！！」

「…僕も最初は、急性貧血だろうって言われたんだ。でもそれは白血病の間違いだった。」

「私は……………」

「でも、そうならない場合もあるって言ってたし、キミがどうなのかは僕はわからない。ほんとはこの話したくなかったんだ。ごめんね、はるかちゃん…」

「いいんです…」

もう今日は寝ますね。

おやすみなさい。」

「おやすみ…」

私、白血病だったらどうしよう。

そんなことを考えたら、眠れなくなってしまった。

## 秘密＝隠し事

俺、はるかにとんでもない隠し事をしてる。

ついこの間の夜のこと

。

俺は、はるかのお父さんに呼び出された。

そして

はるかの病気のことを、知らされた。

はるかの病気……………

そう、白血病

。

草柳さんの話をしていたはるか。

自分も同じ病気だと知ったらどう思うだろう……………。



## 終わりにします。 &次話のあらすじ

続かなくなったので終わりにします。  
また新しいのを書きます。

次の話は...

わたしの恋を参考にした、中学生の恋愛物語です。  
えっと...あらすじは...

中学1年生の加藤綾は、バスケット部に所属する元気な女の子。  
クラスではムードメーカー的存在で、みんなから信頼されてる。  
そんな綾には、小学校1年生のころから好きな人がいた。

中学1年、剣道部所属で、目立つのは170ある背。

今でこそまともになってきたけど、小学校のころはとんでもない生徒で。

でも綾は、そんな彼に惹かれた。

彼の名は、佐藤結城。

恋なんかまったく興味のなさそうな結城と、7年間同じ男を思い続けてきた一途な少女、綾の物語が、いま、始まる。

こんなところですよ。

たぶんほとんど同じ文章を新規小説のところで書くと思いますが勘弁してください。

それでは、次の小説でお会いしましょう。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3603i/>

---

7年目の初恋

2010年10月10日07時02分発行